

社報 御霊本宮

第93号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和4年
2月1日

節分の鬼

過日、選抜高校野球大会出場校が選出され、プロ野球もキャンプインしました。種類によっては、もう梅の花が咲き始めています。加えて「立春」という言葉が使われると、気分的に温かい気持ちにさせてもらえます。

まだまだ寒い日が続きますが、気温的なことより、オミクロン株の感染拡大のほうに、精神的に凍りついてしまっています。第五波までの感染者数が今回の状況と比べて、うそみたいに少なかったのだという状況はただただ驚くばかりです。

さて、節分といえば「鬼」。鬼の行事として、もつともポピュラーなものとなつていきます。節分の夜の行事は、もともと疫鬼の追放を目的としたもの

のです。

疫病や災厄の発症を魍魎魍魎の仕業として、それを視覚的にするため鬼



公事十二月絵巻 雛 (ついな)

の形にしました。節分の行事は中国より入った風習で、慶雲三年(七〇六)にすでに宮廷の儀式「追儺式」として行われています。これは諸国に悪疫が

流行し、それを駆逐する呪術として行われたものといわれています。

追儺式では悪疫を追放する手段として「豆まき」が行われました。宇多

天皇のとき、鞍馬山の奥、僧正谷に

すんでいた鬼神が、都に乱入しようとしたので三石三斗の豆をいり、鬼の目

つぶしをして災厄をのがれたのがは

じまりと伝えられています。

まさしく現在は悪疫流行が最も大

きいときと言えるのではないでしょ

うか。最新医療や科学をもってしても

完全に防御できない今、「豆」を炒つ

て投げつけるしか方法はないよう

です。とは冗談ですが、治療は専門家に

任せる以外にありませんが、防疫のた

めの努力は一人一人がやるしかあり

ません。

マスクの着用や手指の消毒、うがい

など、高度で専門的な技術がいら

ない対策ですが、案外このような地味な方

法が疫鬼には効くような気がするこ

の頃です。

万葉の花たち

かはやなぎ

(カワヤナギ)

山の際に雪は降りつつしかすがに

この河楊は 萌えにけるかも

作者未詳(十一一八四八)

「山のあたりは

まだ雪が降り続い

ているのに、この

川楊はもう芽吹い

ています。」と、待ちに待った春を詠

っています。

ヤナギには、枝葉が揚がる我が国古

来の「楊」と、枝葉が垂れる中国から

渡来した「柳」があり、前者は河楊、

後者は枝垂れ柳です。河楊は別名「猫

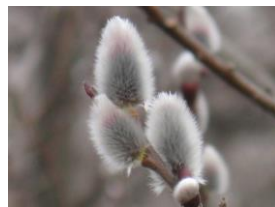
ヤナギ」と呼ばれます。

猫ヤナギは、挿し木をしてすぐ根付

くほどの旺盛な生命力をもっている

ので、春を感じさせる植物として親し

まれているようです。



鬼を祀る神社

「鬼」が神として祀られている「鬼

神社」は全国で四つあります。青森県

弘前市の「鬼神社」、埼玉県嵐山町の

「鬼鎮神社」、大分市の天満社境内の

「鬼神社」、福岡県添田町にある玉屋

神社境内の「鬼神社」です。

鬼は本来死者の魂をさします。それ

に加えて人々が抱く、人間の知恵や力

を越えたものへのおそれやあこがれ

の気持ちと結びつき、鬼を祖霊（祖先

の霊）と考えるようになり、人々の生

活に禍いや福をもたらすものと考え

るようになったのです。鬼はもともと

姿なきものであり、神と表裏をなすも

のであったと考えられています。

鬼神社

弘前市

社伝によれば、延暦年間に坂上田村

麻呂が岩木山麓に当社を勧請し、その

後現在地に移転したといわれます。

拝殿の上方に

三枚の扁額が飾

られ、その扁額

には「鬼神宮」

と書かれています

ですが、この鬼と

いう字には上部のノがありません。こ

れは、ツノのない優しい鬼だと言うこ

とを表しているのだそうです。

次のような鬼神伝説があります。

昔、一人の農民が岩木山中で鬼と親

しくなりました。鬼は自分のことを誰

にも言わないようにと約束をしてい

ました。ある時、その農民が水田を拓

きました。水がかれて困っていました

た。鬼は上流の沢から堰を作って水を

引きました。あるとき、その農民の妻

が鬼を一目見ようとしたために、鬼は

堰を作るときに使った鍬とミノ笠を

置いて去り、二度と姿を見せなくなり

ました。その農民がそれらを持ち帰り

祀ったのが鬼神社の始まりであるとい



鬼鎮神社

嵐山町

この神社の創建は寿永元年（一一一八

二）、畠山重忠の館の鬼門に当たる場

所に厄除けとして設けられたのが始

まりです。「鬼鎮様」と呼ばれる伝説

が残されています。

ある刀鍛冶のところ若者が弟子

入りし、大いに働きました。ある時、

親方の娘を嫁に欲しいと言いました。

刀鍛冶は「一日に刀を百本打てたら嫁

にやろう」と約束しました。すると若

者は一心不乱に刀を打ち始めました。

その勢いは凄まじく、親方は気になっ

て様子を覗くと若者の姿はいつしか

鬼となっていたのです。驚いた親方は

無理やり鶏を啼かして夜が明けたこ

とにして作業を中断させました。夜が

本当に明けた頃に仕事場に行くと、最

後の一本を作るところで若者は槌を

握ったまま死んでいました。哀れに思

った親方は「鬼鎮様」として宮を建て

て祀ったといえます。

八百万の神々

宇迦之御魂

素戔嗚尊と神太市比売との間に大

年神が生まれ、次いで宇迦之御魂が生

まれました。

日本書紀では倉稻魂命と表記され

ています。

名前の「宇迦」は穀物・食物の意味

で、穀物の神です。また「宇迦」は「ウ

ケ」（食物）の古形で、特に稲霊を表

し、「御」は「神秘・神聖」、「魂」は

「霊」で、名義は「稲に宿る神秘的な霊

」と考えられています。

記紀ともに性別が明確にわかるよ

うな記述はありませんが、古くから女

神であると考えられてきました。

食物神が「御饌津神」とも呼ばれる

ことから、宇迦之御魂には「三狐神」

の字が当てられています。これは狐を

「ケツ」と呼んだことから付けられた

といわれ、稲荷神とされる理由となっ

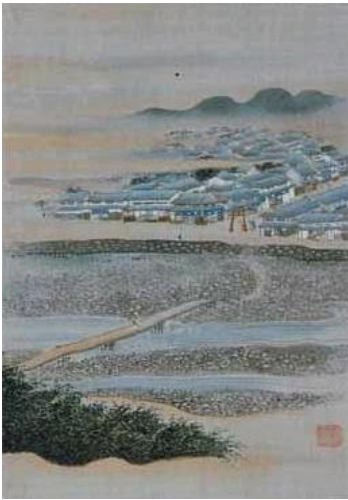
ています。

五條十八景を訪ねて

第十七景「野原柴橋」

はんざん はんせん はんじゅう はんせんに
 半山の烟樹 半川の霞
 ふうがい うんがい かわら
 風外の疎鐘 雲外の鴉
 いかな ことえ
 奈ともする無し声々
 はる お
 春を帯びて去るを
 せきやう おつ じもん
 夕陽 落ち尽くす寺門の花

靄につつまれた山の木々、川にはぼんやり霞がかかっている。風に途切れ聞こえてくる鐘の音、雲のかなたのねぐらに帰る鳥が鳴きながら飛んでいく。鐘の音にも鳥の声にも、行く春を惜しむ哀調が身にしむ思いがするが、行く春を止める手立てもない。夕陽が沈もうとする頃、寺の門の桜の花はすっかり散り落ちてしまった。



が、今も昔も、柴橋・大川橋は人や物が行きかう重要な橋に変わりはありません。

吉野川（紀ノ川）は旧五條市を南北に分断するように流れています。北と南をつなぐ橋が柴橋で、現在は大川橋となつています。



絵は南側から見たもので、写真は北側から見たものです。

絵には鳥居が描かれていますが、これは御霊神社本宮の一の鳥居です。大川橋はトラス橋からトラスのなものに変わり、歩道が増設されたり、北詰には右折レーンが付けられたりと、その姿は変わっていきました。

福豆を授与します

社頭にて「福豆」を無料で授与してあります。この福豆は本殿前に供え、お祓いをして、皆様の健康長寿を祈願したものです。

社頭に置いてありますので御自由にお持ち帰りください。（数に限りがあります。）



プロ野球
 キャンプイン
 しましたが

ただただ驚くばかりです。

新型コロナウイルスのオミクロン株が日本で確認されたという報道があつて、一カ月もしないうちに、瞬間に全国に広がりました、奈良県では第五波で一日の感染者数が最大で二百人ほどでしたが、今は千人を超えました。五條市でも二、三人だったのが十〜三十人の範囲で連日新規感染者が出ています。

そのような状況下で、三月から始まるプロ野球オープン戦の入場券が、席の間引きをせずに販売されます。キャンプインを前に選手や球団職員など各チームで感染者が相次いでいます。キャンプ地の宮崎・沖縄両県はまん延防止法発令中。シーズンが無事に始まりますように。

社報は毎月一日に発行します

Instagram @goryohongu
 Twitter @goryohongu

#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。
 公式ホームページ
<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

十二代景行天皇(十)

日本武尊は蝦夷を平定したのち、日高見国から帰り、常陸を経て甲斐国に至り、酒折宮に着きました。

明かりを灯して食事をし、その夜、歌を作つて従者に尋ねました。

「新治や筑波を過ぎて、幾夜寝ただらうか。」従者たちは答えられませんでした。御火焚の者が、皇子の歌の後を続けて歌いました。「日数を重ねて、夜は九夜、昼は十日でございます。」と。御火焚の賢いのをほめて、厚く褒美を与えました。

この宮に出て、較部を大伴連の先祖の武日に賜りました。

日本武尊が言いました。

「蝦夷の悪い者たちは全て罪に服した。ただ、信濃国、越国だけが少し王化に服していない。」

甲斐から北方の武蔵、上野を巡つて、西の碓日坂に着きました。

日本武尊は常に弟橘姫を思い出される心があつて、碓日の峯に登り、東ました。そして美濃に出ることができ南の方を望み三度嘆いて、「吾婦はや（我妻よ）」と言われた。それで碓日嶺より東の諸国を、吾婦国にといひます。ここで吉備武彦を越国に遣わし、その地形や人民の順逆を見させました。日本武尊は信濃に進みました。この国は山高く谷は深くなつています。青で人や牛馬に塗ると、神氣にあたらぬ嶽が幾重にも重なり、人は杖をついても登るのが難しいところです。岩は険しく坂道は長く、高峯数千、馬は行き悩んで進みません。しかし、日本武尊は霞を分け、霧を凌いで大山を渡り歩きました。

嶺に着き、空腹のため山中で食事をしてしました。山の神は皇子を苦しめようと、白い鹿になつて皇子の前に立ちました。皇子は怪しんで一箇蒜(ニンニク)で白い鹿を弾きました。それが眼に当たつて鹿は死んでしまいました。ところが皇子は、急に道を失つて出すことができなくなり、急いで道を失つて出すことができなくなりました。そのない」と言いました。(次号につづく)

とき白い犬がやつてきて、皇子を導きました。そして美濃に出ることができ吉備武彦は越からやつてきて日本武尊と会いました。これより先、信濃坂を越える者は、神氣を受けて病み臥す者が多くありました。しかし、この山を越える者は、蒜(ニンニク)を嚙ん

本殿前に一対ずつ奉納されています。今回は本殿前の狛犬を紹介いたします。この狛犬は天保十三年(一八四二)に奉納されていて、五條市内ではかなり古い狛犬です。体形や垂耳、団扇型の尾など一般的な狛犬ですが、雨や風に浸蝕されずにいて、渦毛や走り毛、爪などはつきりしています。走り毛は前足首、脇、後ろ足首にあります。前足首にあるのは珍しいです。表情は、どちらかといえは穏やかで、優しい顔つきに見えます。

宇智郡 狛犬めぐり

二見 御霊神社

